

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00486

研究課題名(和文) 古代ローマ社会に位置づける文学・神話研究

研究課題名(英文) Literary and Mythological Studies in Ancient Roman Society.

研究代表者

河島 思朗 (Kawashima, Shiro)

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：80734805

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は神話を題材とする個々のラテン文学作品を、古代ローマの社会的文脈のなかで再考することを目的とした。その結果として従来考えられていた以上に文学作品が社会的な意義を有していたことが明らかとなった。文学作品が社会を導くような視点を有していることに加えて、その語りが神話であることによって文化的なけん引力を有していたことを明示した。この研究成果については、複数の書籍、論文、学会発表などによってその一部を公開することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は古代ローマ時代の文学作品が神話であることに注目しながら、その社会的・文化的意義を考察した。多くの場合ラテン文学と神話あるいは宗教儀礼は別々のものとして考えられている。しかし、両者を切り離せない関係にあるものとしてとらえながら社会的文脈で再考察することによって、ローマにおける文学理解に新たな視点を提示することができた。また、このことは広くローマを理解するうえでも重要な意義を有している。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to reconsider Latin literary works, which have mythological subjects, in the social context of ancient Rome. The results show that poems had more social significance than ever thought. In addition to the fact that literary works have a guiding perspective on society, the study also showed that their mythological narratives had cultural influences. The results of this research have been made public in part through several books, articles and conference presentations.

研究分野：西洋古典学

キーワード：西洋古典学 オウィディウス ホラティウス ウェルギリウス 神話 ローマ

### 1. 研究開始当初の背景

ラテン文学作品は、古代ローマにおいて社会を先導するような重要な位置づけにあったと考えられるが、文学の社会的役割についての研究は一部にとどまっている。また神話が宗教的にも政治的にも社会や文化に深く根付いていたことは確かであるが、文学作品が神話を題材としていたことの意義について考察されることは少ない。神話を描く文学が古代ローマ社会においてどのような位置づけにあるかを議論する余地は多分に残されている。

### 2. 研究の目的

本研究は、西洋古典文学作品が神話を題材としていることを足掛かりとして、文学および神話の社会的意義を明らかにすることを目指している。その研究基盤を構築するため、ラテン文学を代表する作品を社会的文脈との関連のうちに再解釈し、当時の時代背景のもとで作品がどのような意味を有しているかを解明するとともに、神話(あるいは物語)を社会構造に位置付けようとする。

### 3. 研究の方法

本研究は研究基盤を構築することを目指しているために、ラテン文学を代表する詩人、すなわちウェルギリウス、ホラティウス、オウィディウスの作品を考察の対象とすることが適切であると考えられる。そのうえで、以下のような方法を用いる。

(1) ウェルギリウス、ホラティウス、オウィディウスの各作品を対象に、文献学的理解・作品理解を深める。またそのような解釈を前提に、作品を社会的文脈に位置付けながら新たな観点をもちいて理解する。

(2) 古代ローマにおいて、神話がどのような存在であったかを考察する。とりわけ、対象とする各作品に語られる物語が神話であることに着目しながら、その社会的意義を再考することで、神話や物語を社会構造に位置付ける。

(3) 本研究の研究対象が広範であることから国内外の研究者と意見交換するなど広い知見を得る必要がある。また広く古代ローマの文化的側面をとらえるため、イタリアを中心に実地調査をおこなうとともに資料収集をおこなう。

### 4. 研究成果

(1) 2018年度：研究対象の中心のひとつであるオウィディウス『変身物語』について、文献学的研究の成果を学会で発表した(オウィディウス『変身物語』第4巻243行 enectum について)。この成果は『変身物語』のテキストに新たな読みを提示するものであり、古典学研究において解釈の前提となる重要性を有している。

ウェルギリウスに関連する研究としては、その成果を共著の論文集で発表した(「アイネイアス 生き残る運命」)。これは、ホメロス『イリアス』におけるアイネイアス神話を分析するものであり、のちにウェルギリウス『アエネイス』の主題へとつながるものである。文学伝統の継承という側面とともに、神話の継承と改変という側面から考察することにより、ギリシアからローマへの移行およびローマ神話の独自性を理解する糸口となった。

文学作品の社会的影響について言語とのかかわりから考察し、その成果を学術雑誌において発表した(「ギリシア語の方言とラテン語の標準語 共通語・公用語に関する文学の役割」)。この成果は古代ローマの公用語であるラテン語が支配地域に広がるときに、文学が一定の役割を果たしたことを明らかにするものであり、文学の社会的意義の考察に寄与するものである。

また古代ローマが版図を広げる際に、神話を用いて異文化との文化的な融合を進めたことを明らかにし、その成果をシンポジウムで発表した。同様に、地中海世界において人や物の流動性や社会的観点に対して神話がもたらす影響を分析し、口頭で発表した。これらの成果は本研究の主眼のひとつである文学・神話・社会の関連性を明らかにすることに寄与した。

(2) 2019年度：オウィディウス『変身物語』に関する論考を博士論文として発表した(『オウィディウス『変身物語』における叙事詩の技法 物語相互の内的連関と統一性の原理』)。本論考では『変身物語』の詳細な作品分析を通じて、作品が叙事詩として書かれていることの意義を議論した。様々な文学ジャンルのなかで、叙事詩は特に社会的な重要性を問われるものである。本論考はその叙事詩としての側面を積極的に作品解釈に取り入れることで、従来の研究手法を飛躍的に更新するものとなった。

神話を対象とした研究としては、都市にまつわる神話の意義と、物語が誕生する軌跡を検討することで、神話のもつ社会的な機能を明らかにした。この成果は、シンポジウムにおいて口頭発表した。またヘラクレス神話に焦点をあて、神話が地中海文化を結びつける役割を担っているこ

とを明示し、発表した。

(3) 2020 年度：文学作品に語られる神話の記述について、実際のローマ社会のなかでおこなわれる祭儀との関連や、考古学的成果との比較から考察し、新たな理解を得た。具体的にはオウィディウスの『変身物語』『祭暦』に語られる神話記述に着目し、ローマ土着の神格であるアンナ・ペレンナの神話物語について、文学作品での記述に加えて、社会的・歴史的観点からの検討し、さらに考古学の調査結果を加えた分析をおこなうことで、物語を多角的に考察した。その成果の一端を公表した(「アンナ・ペレンナの聖なる泉」)。

またウェルギリウス『アエネイス』に語られる神話の社会的な意図について明確にした。そして、神話の記述が伝統的な物語の提示のみならず、同時代のローマにとって有効な新たな観点を示していることを明らかにした(「ギリシアとローマを結びつけるエウアンドロス」)。これらの成果は古代ローマ社会における文学と神話の一側面を解明するものとなった。

またこれまで続けてきた研究の総体として西洋古典学に関する専門書籍を編集(『西洋古典学のアプローチ 大芝芳弘先生退職記念論集』)するとともに、同書籍において論文を発表した(「物語の連続性と語り手の技巧 オウィディウス『変身物語』第10巻86-209行」)。加えて、西洋古典文学に関する研究手法を明らかにすることを目的とした研究発表をおこなった。この発表においては古代における歴史学・哲学研究との相互理解を深める結果をもたらした。

(4) 2021 年度：文学作品に語られる神話記述に着目し、文学的観点、神話的観点を社会的文脈に位置付けながら論じた。たとえば、ローマにあるポアリオ広場をめぐるエウアンドロスの神話に着目し、その神話を語るウェルギリウス『アエネイス』の叙事詩を分析した。このローマ建国の叙事詩のなかではエウアンドロスの神話がローマとギリシアの文化的融合を意図的に描き出すことによって社会的な意義を有する観点を提示するとともに、その要素が現実的な人々の生活に影響を与えていたことを明らかにした。このような成果の一端はエッセイ(「サンタ・マリア・イン・コスメディン教会とフォーロ・ポアリオ」)や書籍(『おそまつなギリシャ神話事件簿』)を通じて広く一般に還元された。

またホラティウスの代表作品である『カルミナ』の分析を通じて、ラテン文学作品の社会に対する姿勢を明らかにするとともに、作品の社会的意義を明示した。この成果は学会で口頭発表するとともに、論文として公表した(「ホラティウス『カルミナ』1.1におけるプリアメル: lyricus vates の視座」)。

本研究の期間全体を通じて、ラテン文学を代表する詩人たちの作品を社会的文脈のなかで再考し、詩人が神話という題材をもちいて、当時の時代背景のもとで社会を導くような作品を提示していた様相の一端を解明することができた。本研究の成果や今後の発展について、いくつかの研究会や学会で意見交換をすることができたとともに、諸外国の研究者との交流を通じて新たな知見を得ることができた。

本研究によって得られた成果については複数の論文や口頭で発表するとともに、研究論文集の編著の活動を通じて公表した。また精力的に市民講座や講演会をおこなうとともに、一般書の監修(『ペルセウスの冒険』)や寄稿(『はじまり見える世界の神話』)することを通じて、学術的な成果を広く社会に還元する活動をおこなうことができた。

文学および神話が有する社会的な機能の解明については、さらなる深化を必要とするものではあるが、本研究はその研究の基礎に深く寄与することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

|                                                      |                       |
|------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>河島思朗                                       | 4. 巻<br>44            |
| 2. 論文標題<br>サンタ・マリア・イン・コスメディン教会とフォーロ・ボアリオ             | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>ペディラヴィウム会通信                                | 6. 最初と最後の頁<br>8-11    |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                        | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>河島思朗                                       | 4. 巻<br>26            |
| 2. 論文標題<br>ホラティウス『カルミナ』1.1におけるプリアメル：lyricus vatesの視座 | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>西洋古典論集                                     | 6. 最初と最後の頁<br>105-120 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                        | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>河島思朗                                       | 4. 巻<br>428           |
| 2. 論文標題<br>アンナ・ベレンナの聖なる泉                             | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>地中海学会月報                                    | 6. 最初と最後の頁<br>3 - 3   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                        | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>河島思朗                                       | 4. 巻<br>145           |
| 2. 論文標題<br>オウィディウスが伝える物語の力                           | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>西洋古典叢書 月報                                  | 6. 最初と最後の頁<br>2 - 5   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                        | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-             |

|                                        |                       |
|----------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>河島思朗                         | 4. 巻<br>63            |
| 2. 論文標題<br>ギリシアとローマを結びつけるエウアンドロス       | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>以文                           | 6. 最初と最後の頁<br>21 - 22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|                                                                                                                                                                                                                           |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>河島思朗                                                                                                                                                                                                            | 4. 巻<br>68            |
| 2. 論文標題<br>書評: Elena Giusti, Carthage in Virgil's Aeneid: Staging the Enemy under Augustus (Cambridge Classical Studies). Pp. xiv + 334, Cmbridge/New York. Cambridge University Press 2018, £75.00. ISBN 9781108266086.2 | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>西洋古典学研究                                                                                                                                                                                                         | 6. 最初と最後の頁<br>124-126 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                                                                                                                                                                            | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                                                                                                                                                                    | 国際共著<br>-             |

|                                                     |                     |
|-----------------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>河島思朗                                      | 4. 巻<br>-           |
| 2. 論文標題<br>オウィディウス『変身物語』における叙事詩の技法 物語相互の内的連関と統一性の原理 | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>首都大学東京博士学位論文                              | 6. 最初と最後の頁<br>1-353 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                      | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難              | 国際共著<br>-           |

|                                               |                     |
|-----------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>河島思朗                                | 4. 巻<br>479         |
| 2. 論文標題<br>ギリシア語の方言とラテン語の標準語 共通語・公用語に関する文学の役割 | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>日本語学                                | 6. 最初と最後の頁<br>66-80 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難        | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

|                         |
|-------------------------|
| 1. 発表者名<br>河島思朗         |
| 2. 発表標題<br>西洋古典文学における夢  |
| 3. 学会等名<br>西洋古典学連携共同研究会 |
| 4. 発表年<br>2022年         |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>河島思朗                       |
| 2. 発表標題<br>ホラティウス『カルミナ』 1.1 におけるプリアメル |
| 3. 学会等名<br>京都大学西洋古典研究会                |
| 4. 発表年<br>2021年                       |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>河島思朗                       |
| 2. 発表標題<br>西洋古典文学における「感情」の解釈          |
| 3. 学会等名<br>人文知連携共同研究会「古代人の感情に関する共同研究」 |
| 4. 発表年<br>2020年                       |

|                                |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名<br>河島思朗                |
| 2. 発表標題<br>ヘラクレスの旅：地中海文化の融合    |
| 3. 学会等名<br>東海大学文化社会学部シンポジウム「旅」 |
| 4. 発表年<br>2020年                |

|                                                |
|------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>河島思朗                                |
| 2. 発表標題<br>古代ギリシア・ローマの神話と都市                    |
| 3. 学会等名<br>東海大学文化社会学部シンポジウム「ヨーロッパ・アメリカの都市の歩き方」 |
| 4. 発表年<br>2019年                                |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>河島思朗                     |
| 2. 発表標題<br>古代ギリシア・ローマの水と神話：文明の誕生と流動 |
| 3. 学会等名<br>シンポジウム「水の流れと文化」          |
| 4. 発表年<br>2019年                     |

|                                            |
|--------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>河島思朗                            |
| 2. 発表標題<br>オウイディウス『変身物語』第4巻243行enectumについて |
| 3. 学会等名<br>第17回フィロロギカ研究集会                  |
| 4. 発表年<br>2018年                            |

|                                              |
|----------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>河島思朗                              |
| 2. 発表標題<br>古代ローマにおける異文化への態度 - 神話の共有と社会の多様性 - |
| 3. 学会等名<br>シンポジウム「異文化の交流と融合」                 |
| 4. 発表年<br>2018年                              |

## 〔図書〕 計5件

|                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>河島思朗          | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>すばる舎          | 5. 総ページ数<br>208 |
| 3. 書名<br>おそまつなギリシャ神話事件簿 |                 |

|                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>浜本裕美、河島思朗（編著） | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>晃洋書房          | 5. 総ページ数<br>388 |
| 3. 書名<br>西洋古典学のアプローチ    |                 |

|                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>豊永盛人（作）、河島思朗（監修） | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>書肆サイコロ           | 5. 総ページ数<br>18  |
| 3. 書名<br>ペルセウスの冒険          |                 |

|                                                                                                                                    |                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>植 朗子、阿部 海太、石黒 大岳、市川 彰、植田 麦、柏原 康人、紙村 徹、河島 思朗、木村 武史、齋藤 玲子、杉村 佳彦、高木 朝子、高島 尚生、田澤 恵子、潘 寧、平井 芽阿里、松井 真之介、宮川 創、護 山 真也、山口 涼子、横道 誠 | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>創元社                                                                                                                      | 5. 総ページ数<br>132 |
| 3. 書名<br>はじまりが見える世界の神話                                                                                                             |                 |



|                                 |                 |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>川島重成, 古澤ゆう子, 小林薫 (編集) | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>ピナケス出版                | 5. 総ページ数<br>589 |
| 3. 書名<br>ホメロス『イリアス』への招待         |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

オウィディウス『変身物語』における叙事詩の技法：物語相互の内的連関と統一性の原理  
<http://hdl.handle.net/10748/00011576>

6. 研究組織

| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|